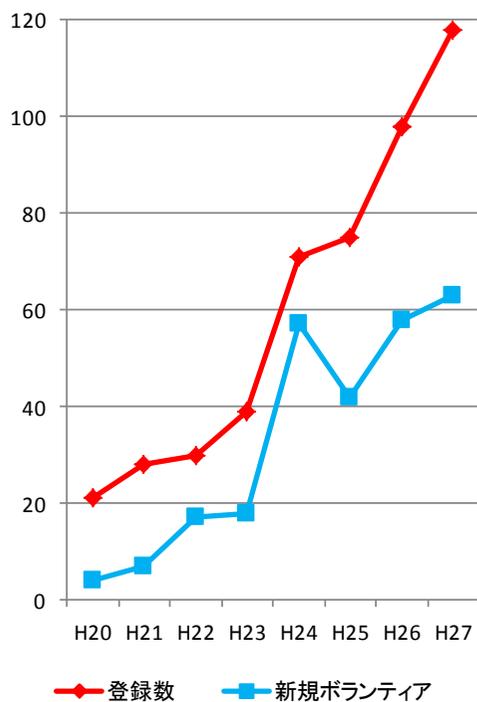


# 国立岩手山青少年交流の家における法人ボランティアの活動状況に関する推移

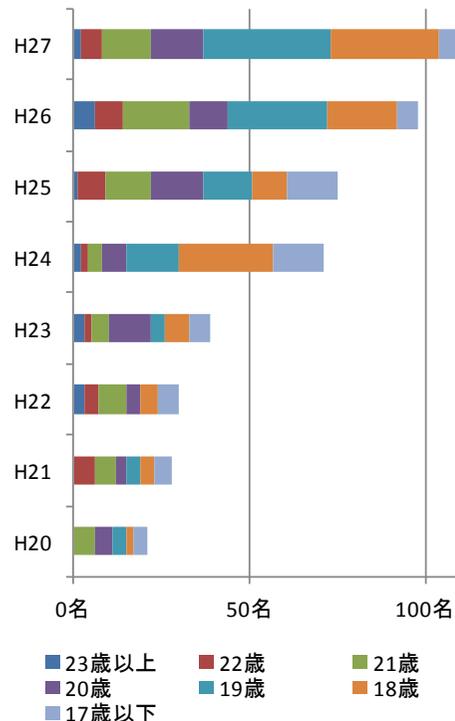
## ■活動状況に関する一覧表およびグラフ（平成20年度～27年度）

	登録数	新規ボランティア	23歳以上	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳以下	述べボランティア活動人数／年間	備考	担当職員	
平成20年度	21名	4名	0名	0名	6名	5名	4名	2名	4名	122名		村田	
平成21年度	28名	7名	0名	6名	6名	3名	4名	4名	5名	282名		佐々木	
平成22年度	30名	17名	3名	4名	8名	4名	0名	5名	6名	264名		平田	
平成23年度	39名	18名	3名	2名	5名	12名	4名	7名	6名	281名		南山	
平成24年度	71名	57名	2名	2名	4名	7名	15名	27名	14名	281名		氏家	及川
平成25年度	75名	42名	1名	8名	13名	15名	14名	10名	14名	384名	定期ボランティアミーティング廃止 ボランティア育成ビジョン創成期	丹	及川
平成26年度	98名	58名	6名	8名	19名	11名	28名	20名	6名	466名	ボランティア育成ビジョン試行期	中田	及川
平成27年度	118名	63名	2名	6名	14名	15名	36名	31名	14名	955名	ボランティア育成ビジョン発展期	鎌田	及川

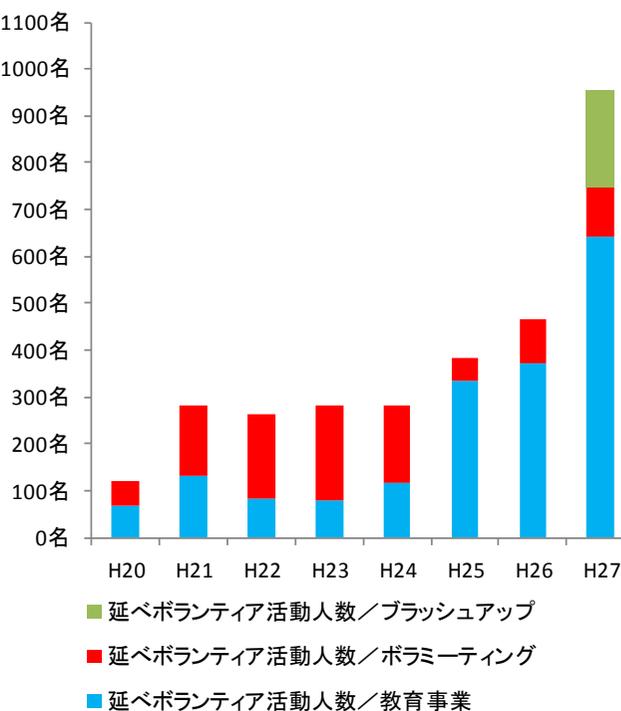
登録者数推移



年代別登録者数推移



述べボランティア活動人数推移



	ボランティアミーティング開催数	ボランティアミーティング平均出席数
H20	10回	5.4名
H21	19回	7.9名
H22	32回	5.7名
H23	34回	5.9名
H24	26回	6.3名
H25	4回	12.3名
H26	4回	23.3名
H27	4回	27.0名

## ■活動状況に関する一覧表およびグラフの補足説明

### a. 登録者数推移について

登録者数は、平成24年度を境に右肩上がりを示している。特質すべき点は、平成24年度から安定的に40名～60名ほどの新規ボランティアを獲得している点である。さらに、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を視野に入れた平成25年度のボランティア登録更新者（数値は平成26年登録者数に反映）からは、2年目以降もボランティア登録を継続する学生が安定的に増加していることが分かる。

### b. 年代別登録数について

年代別登録数を見ると、平成25年から27年にかけて、大学1、2年生の年代である18歳、19歳の割合が増加している。一方で、新規ボランティアにとって憧れや目標のロールモデルとなる、大学3、4年生の年代である20歳、21歳、22歳の割合は、平成25年度から安定数を維持できている。

### c. 述べボランティア活動人数推移

平成20年度から、「ボランティアのためのスキルアップ研修」を事業として展開しており、定期的にボランティアミーティングを実施していた。しかしながら、職員やボランティアの入替えに伴い、少数の特定人物だけが参加する閉鎖的な環境となっていたため、平成24年度に縮小を検討し始めた。

検討の結果、平成25年度はボランティアミーティングの実施を「テニパークちゃれんじクラブ夏・冬」における事業企画活動のみに限定し、年4回の開催とすることとした。平成24年度までのボランティアミーティングは、ボランティア日当や旅費の支払いもしていたため、事業運営費の効率的な運用の側面でも削減する必要があると判断し、定期ボランティアミーティングは廃止とした。

「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を作成し始めた、平成25年度からは、ボランティアの活躍機会を効率的に提供できるようになり、ボランティアミーティング以外の教育事業に参加するボランティアが劇的に増加している。

平成27年度は、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の発展期に伴い、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトを展開している。ボランティアブラッシュアッププロジェクトの展開の成果もあり、平成27年度の延べ活動総数は前年から倍増の955名である。今年度の活動機会の増加には、幾つか要因が挙げられるが、第一にボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトへの参画（延べ298名）が挙げられる。また、ブラッシュアップ・プロジェクトの講師に他施設のボランティア・コーディネート者を招聘することで、那須甲子ドリームプロジェクトⅣ（1泊15日）に参加する者もあった。さらに、岩手山職員が企画実行委員会委員となっている機構本部の教育事業「世界の仲間とゆく年くる年」においても、複数のボランティアが参加した。